



企業担当者に聞きました！  
ワーケーションに関するアンケート調査

「企業版ふるさと納税を活用したワーケーションの取り組み方」セミナー参加者アンケート

© JTB Photo

株式会社 JTB

Confidential

本資料のいかなる部分についても、株式会社JTBの事前の承諾を得ずに、引用・複製してはならないものとします。

感動のそばに、いつも。 **JTB**

## セミナー名：「企業版ふるさと納税を活用したワーケーションの取り組み方」

日時：2020年11月17日(水) 15:00～16:40

会場：オンライン開催

定員：500名

費用：無料

主催：株式会社JTB

配信：WEB配信を予定しております。

対象者：ワーケーション制度導入を検討・設計している方、営業推進・マーケティング関連部署の方、  
総務・人事関連部署の方、人事制度・報奨制度を設計している方、CSR関連部署の方

プログラム：第一部

【働き方のこれからのあたりまえ ワーケーション】

講師：ユニリーバ・ジャパン・ホールディングス株式会社 取締役 人事総務本部長 島田 由香 氏

第二部

【企業版ふるさと納税の制度概要について】

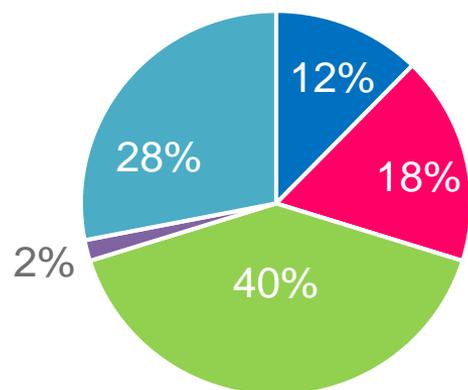
講師：株式会社カルティブ 企業版ふるさと納税コンサルタント 小坪 拓也 氏

【企業版ふるさと納税を活用したワーケーションの可能性について】

担当：株式会社JTB 法人事業本部 事業推進部 地域交流事業チーム 中川 信治

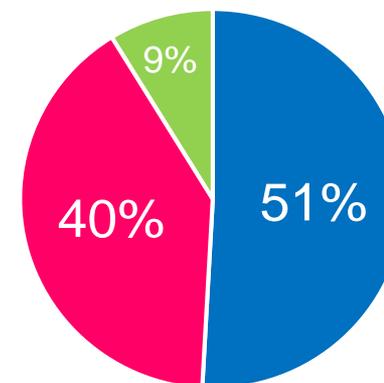
アンケート回答数：57

## No4-1 ワーケーションに対する取り組みについて どう思われましたか？ (n=57)



- すでに取り組みをしている
- 後日検討したい
- 取り組みを検討したい
- 取り組むことは考えていない

## No5-1 企業と地域の関わり方の1つとして ワーケーションに魅力を感じますか？ (n=57)



- 非常に感じる
- 感じる
- どちらでもない

■ 「すでに取り組みをしている」「後日取り組みを検討したい」「取り組みを検討したい」が、7割を占めました。また地域との関わる手段として、ワーケーションに魅力を感じると回答した人は9割を超えています。ワーケーションに対して、多くの企業が前向きに捉えていることが率直に伺えます。

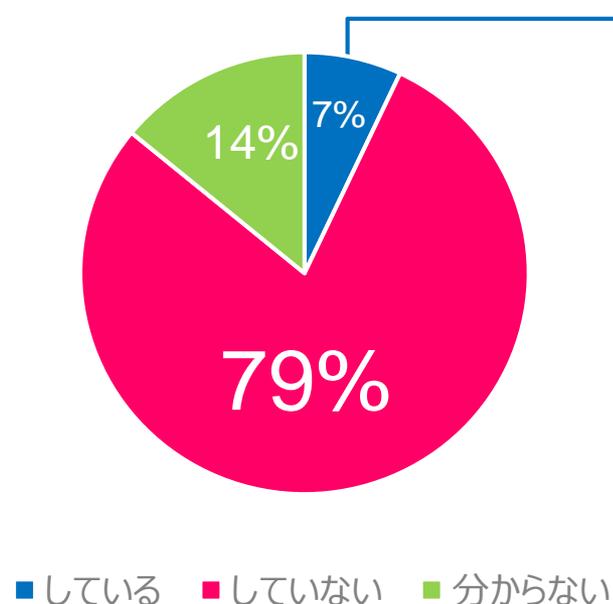
## No5-2【No5-1で「非常に感じる」「感じる」を選択された方】 具体的にどのような点が魅力的ですか？

- 経済的な魅力はもちろんだが **人と人との交流が生まれる点や、都心部で働く人たちの満足度向上に地方が貢献できる点、外部の人から見た地方の魅力を発見できる点など。**
- 弊社は、実際に地方自治体とのコラボレーションの実績も多く、**ワーケーションを切り口としたあらたな関係性に可能性を感じるため。**
- 会社の業績向上に繋がり、従業員満足度もあがると期待。
- 企業として地域活性化の一助になれることは素晴らしい。地域共創は弊社の重要テーマの1つでもありますので、いままでと違う視点で重要テーマに寄与ができるのではないかとイメージすることができました。
- 地域との連携（地域課題の共有・協働等）により、社員の能力開発の一環にもなり得る点。**単に、自社のワーク+バケーションではない切り口もある点は面白く感じた。**
- ただ地方で仕事するだけでなく、地方で仕事する意味付け、また**現地の理解や交流があると価値ある働き方になる**と感じるためです。
- 企画の仕事が多く、**発想を変えて、場所を変えての仕事環境が大切！**
- ワケーションをビジネスとして始めることに加えて、**自社の社員にとっての多様な働き方の提供**につながり、社員満足・モチベーションアップにつながる点。
- 単なる観光では単発に終わってしまう可能性が高いが、**ワーケーションであれば企業と地域の関係の継続性が保たれる**と考えられ点。



■ 自社社員のモチベーションアップやリフレッシュ、生産性向上だけではなく、企業と地域の結びつきや社員と地域の結びつき、それも中長期目線での結びつきに注目しているコメントが非常に多い結果となりました。このあたりの仕掛けづくりが、“ワーケーション受け入れ地域”として企業に選ばれるポイントかもしれません。

## No6-1 お勤めされている企業では、ワーケーション制度を導入されていますか？



### No6-2 【No6-1で「導入している」を選択された方】 具体的にどのような取組みがお聞かせ下さい。

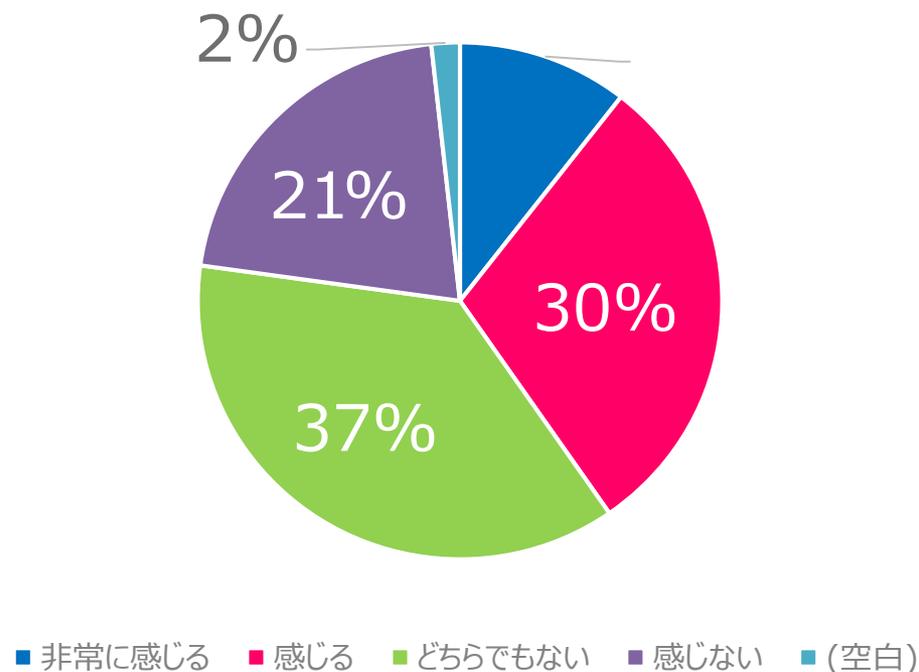
- ・休暇活用型（有給休暇中に半日または1日だけ仕事の時間を設けるといったものや出張先でそのまま休暇を取る（フリージャー）といったもの）
- ・オフサイト会議・研修型（リゾート地や温泉地で行われるミーティングや研修など。社員が主体的に参加するもの）

### No6-3 【No6-1で「導入している」を選択された方】 ワーケーション先の自治体との関係性をお聞かせください。

- ・営業戦略的に重要なエリアである
- ・支店、営業所等、何らかの営業拠点がある
- ・特別な関係はない・分からない

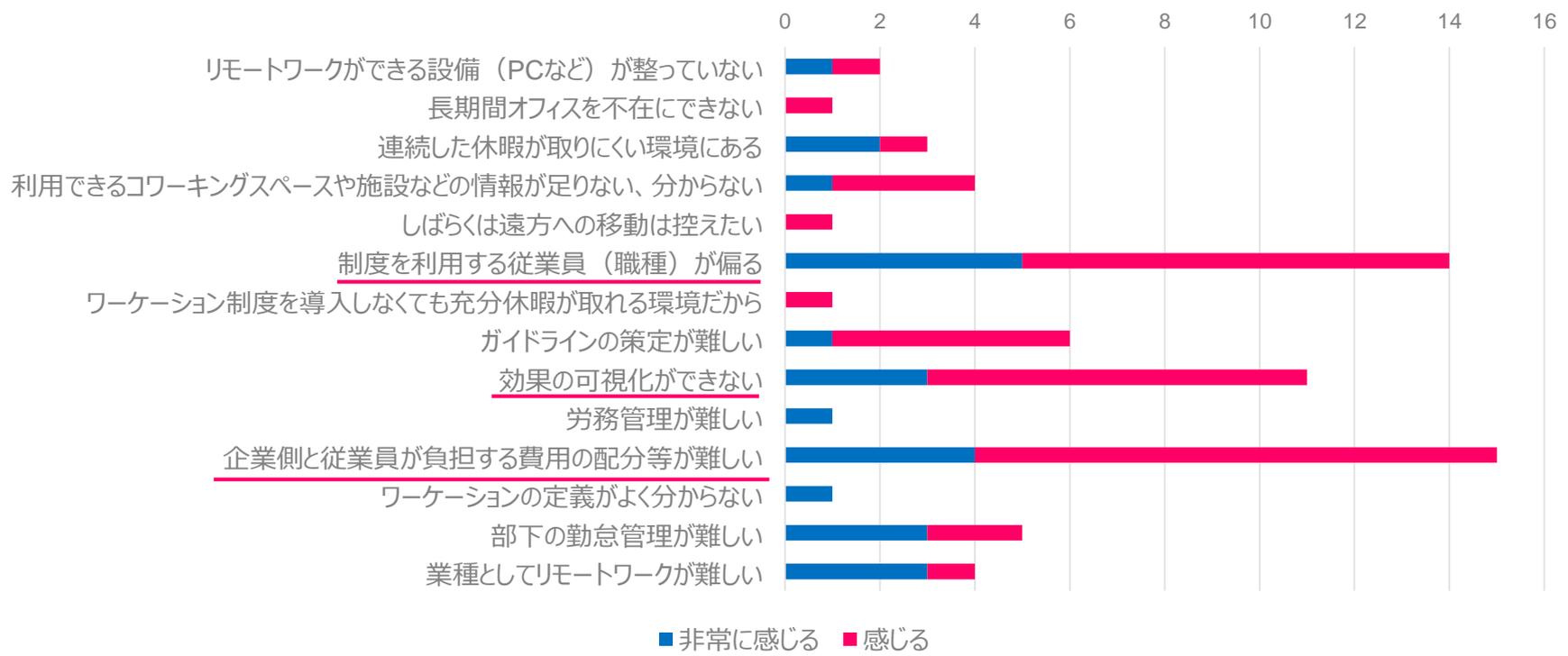
■ ワーケーション制度を導入していないと回答した企業は、80%近くに。導入していると企業は、わずか7%という結果でした。導入している企業では、日本型ワーケーションの3類型のうち、有給休暇中に半日や1日仕事をする『休暇活用型』とミーティングや研修を行う『オフサイト会議・研修型』を導入しているという回答でした。場所を選ばないテレワークである『日常埋め込み型』を導入している企業ありませんでした。ワーケーションの浸透もまだまだこれからだと言えます。

## No7-1 ワーケーションへの取り組みに対して、不安や課題を感じますか？



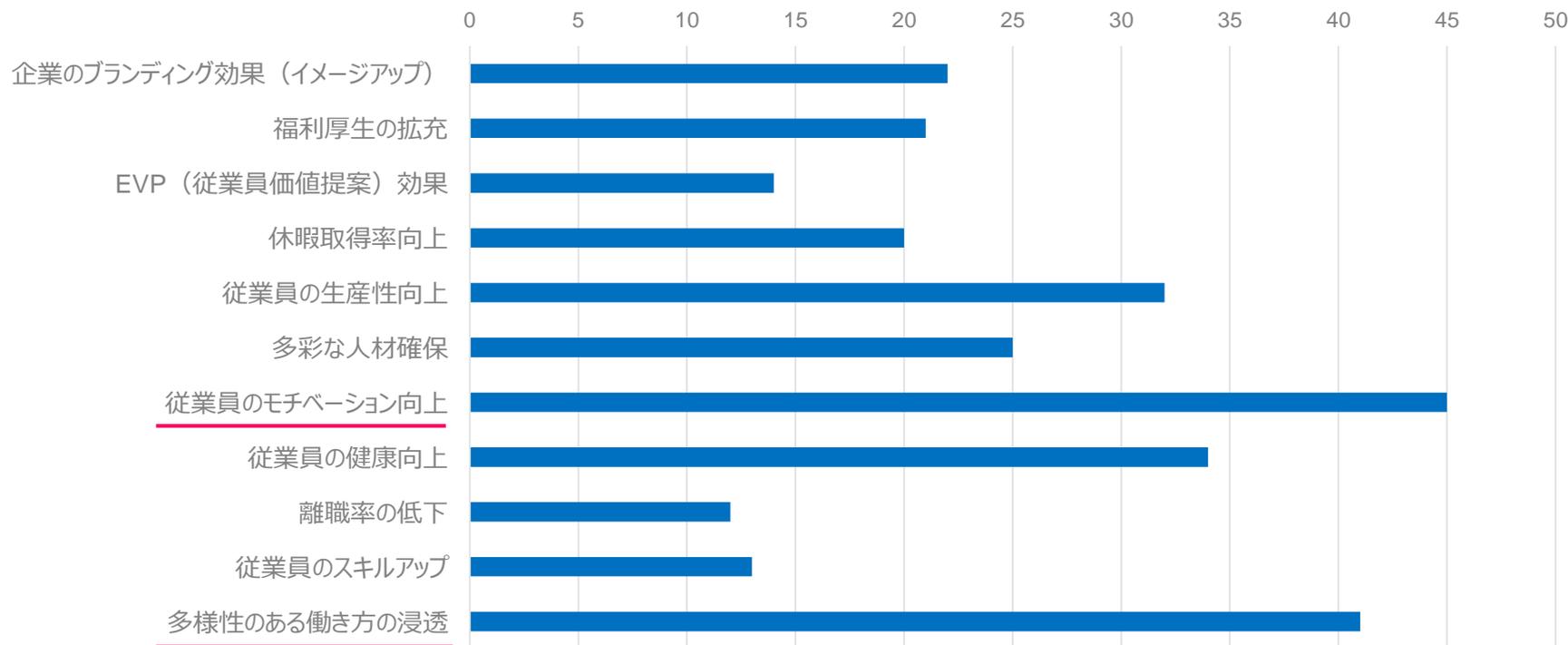
■ 約70%の担当者が、ワーケーションへの取り組みに何らかの不安や課題を感じているという結果に。多くの企業がワーケーションに興味がある一方、導入にあたっては不安や課題が大きいことが明確になりました。

## No7-2 【No7-1で「非常に感じる」「感じる」を選択された方】 具体的にどのような点ですか？



■ 企業担当者が、不安や課題を感じている主なものは、大きく3つでした。一番多かったのが「費用負担」の問題。出張とは違うため交通費や滞在費をどこまで社が負担するのか？といった問題です。次に多かったのが「利用できる従業員に偏りが出る」というもの。これは、例えば工場で働く人にとっては利用できなかったりするため、全員が使えないものが社の制度として適切なのか？といった考えだと思われます。そして、3つ目が「効果の可視化」です。今までにない取り組みのため、本当に効果があるのか？導入担当者としてエビデンスがあれば、押しやすいということだと考えられます。

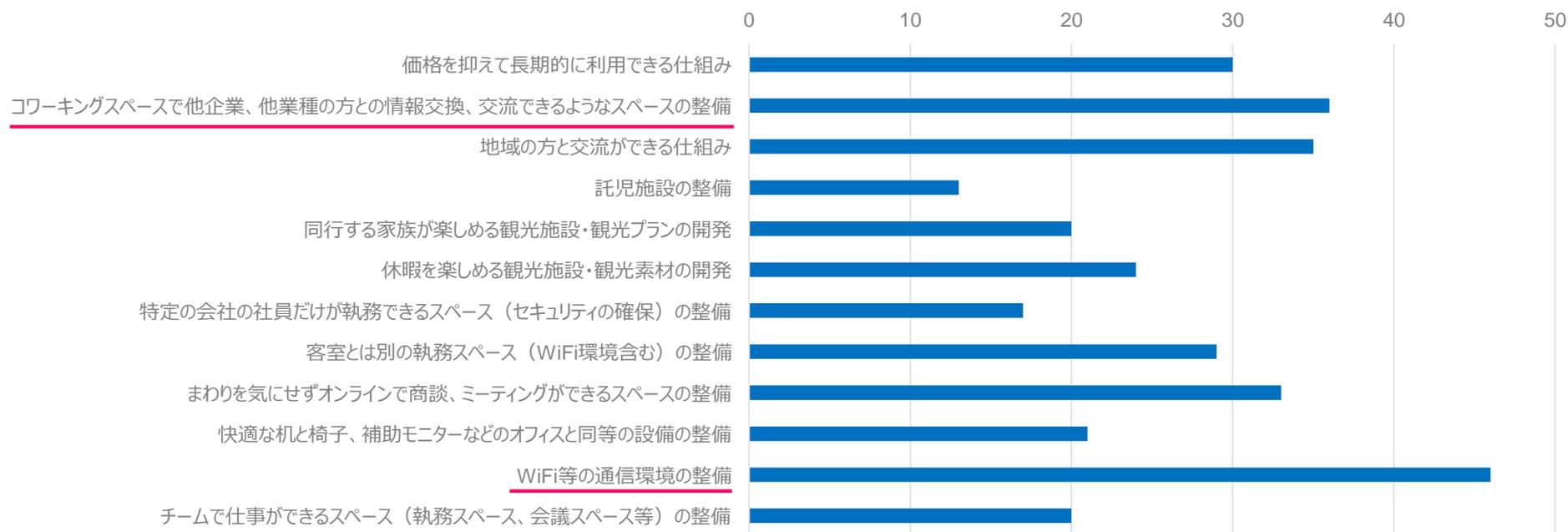
## No8-1 ワーケーション取り組みにあたり、どんな効果を期待しますか？



■ ワーケーションに期待する効果について聞いたところ、一番多かったのは「従業員のモチベーション向上」、2番目が「多様性のある働き方の浸透」でした。さまざまな観点で働き方改革が重要視されていますが、引き続き、企業担当者にとってこの課題への関心度が高いことが伺えます。

**ワーケーションの地域としてもこれまでとは違った“その地域だからできる働き方”を提案できるか**がポイントになってくると思われます。

## No9-1 ワーケーション取り組みにあたり、受け入れの地域・自治体に求めることはどのようなことですか？



➡
**■ 企業がワーケーションにあたり、受け入れ地域・自治体に求めるもので一番多かったのは「通信環境の整備」でした。テレワークには必須であるため、これは前提条件と考えるべきでしょう。**  
 ここで注目したいのは、「**他企業、他業種の方との情報交換、交流**」を求めているところです。  
 共創・創発に注目が集まっていますが、その場として、ワーケーションに可能性を感じていると考えられます。  
 このような場を創ることも企業に選ばれるポイントだと言えます。

## No10-1 その他、ワーケーションに関するご意見がありましたらお聞かせください。

- ワケーションの魅力はある程度理解しており、今回のセミナーでも良く分かりました。ただ、**導入にあたっては、どのような課題があって、何を解決しておかないといけないのかが分からない**。導入するには、解決が必要な課題（企業側）、デメリットなどが可視化されていないと「何となく不安（まだ解決しないといけない課題があるのではないか）」という理由で、社内が進まない状況が想定されます。「とりあえずやってみよう！」という訳にはいかないのです、このあたりを解消できる情報がほしいと思いました。
- 企業内のコンセンサス（合意形成）作りも課題。良くも悪くも**ワーケーションの定義がフワフワしているため、「仕事も遊びも中途半端になるのでは？」と捉えられる懸念もある**。考えるよりも、実際に経験するのが一番だと思うのだが。
- 自分自身がワーケーションができれば幸せか？と考えた時に、仕事内容や成果物（達成責任）、滞在期間中の家事とかいろいろ気になって、判断できなかったです。でも**選択肢があることは、大賛成**です。
- **まだまだ言葉だけが先行**していて、当茨城県に於いては自治体の実感的に取り組みに差がある
- 現在は過渡期だと思います。ワーケーションがこれからますます普及していく中で、多様なワーケーションの形が出てくるのだと思います。そのプロセス自体にも**仕事を通じて（できればワーケーションという働き方、休み方も織り込みながら）取り組んでいきたい**と思います。
- 在宅ワークすら一時的にしか実施できない企業が多い中で、**ワーケーションへの取り組みが浸透するには、かなり時間がかかる**ような気がします。
- メディアでも「ワーケーション」をよく見聞きするが、実際に働いている周りの人に聞いてみると**意外にもその取り組みはおろか認知度もままならなかったりしている**。よく、今後ワーケーションは絶対にくる・と言われているが、一部の企業や一部の人たちにだけでなく、本当に日本に浸透する、させるためには何が課題でどうしていくべきなのか・というところはどこまで考えているのか聞いてみたかった。

- 
- ワケーションを前向きに捉えつつも、いざ自社に導入しようと考えるとかなり慎重になっている様子が伺えます。受け入れ地域・自治体には解決できないような企業側の課題もありますが、いままでになかった働き方・休み方を浸透させるためには、少しずつでも活用事例を出し、価値を実証していく必要があるように思われます。

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社JTB  
法人事業本部

東京都品川区東品川2-3-11 JTBビル13階

E-mail [isr\\_mktg@jtb.com](mailto:isr_mktg@jtb.com)  
営業時間：10:00-17:00 定休日：土日祝及び年末年始

お問合せ <https://www.jtbbwt.com/business/contact/>

ホームページ <https://www.jtbbwt.com/>